

生理機能検査学実習A

単位数：2単位(90時間)

責任者：専任教員
学年・学期：第1学年・後期

◆一般目標(GIO)

生理機能検査には心電図、心音図、脳波、筋電図、基礎代謝、呼吸機能、脈波、熱画像、眼振電図、重心動揺計、超音波、磁気共鳴画像、眼底写真、毛細血管抵抗検査、経皮的血液ガス、聴力検査、嗅覚検査、味覚検査(計18種)があり、近年その業務範囲は拡大し臨床検査技師の重要性と責任はますます大きくなっている。

本実習は、臨床検査技師の実務において最も重要と考えられる検査項目について、少人数のグループに分かれ、各日程に従って実習をおこなう。各セクションでは機器の準備、操作などについて修得し、また、グループ内で順番に検査技師役と患者さん役に分かれて、両者を体験することにより、患者接遇やマナーについて修得する。

◆到達目標(SBOs)

1. 解剖学および生理機能について理解し説明することができる。
2. 実際に使用する生理検査機器の準備することができる。
3. 生理検査機器を用いて実際に測定することができる。
4. 得られたデータを処理し報告することができる。
5. 保守安全管理について説明することができる。
6. 患者様と接する身だしなみができる。
7. 患者様と接する言葉使いができる。
8. 患者様の心理を理解し接することができる。

<循環機能検査(心電図)>

9. 刺激伝導系が理解できる。
10. 標準12誘導が測定できる。

<脳波検査>

11. 患者接遇をおこない、脳波検査について説明することができる。
12. 10/20法を理解し、実施することができる。

<呼吸機能検査>

13. 肺気量分画図が理解できる。
14. 肺活量を測定できる。

<超音波検査>

15. 日本超音波学会の基準に従い画面の表示方向を合わせることができる。
16. 上腹部の実質臓器(肝・胆・膵・腎)及び代表的な動静脈を描出し撮影することができる。
17. 撮影した写真を基にシェーマを描き、各部位の名称を記載することができる。

◆学習方法

実習は教科書を中心に行い、必要に応じてプリント、資料を配付する。

◆評価方法

レポート(データ処理)と授業内実技試験を柱に、出席・実習態度を考慮して総合的に評価する。

◆教科書

臨床検査学講座 『生理機能検査学』 東條 尚子 他編 医歯薬出版(株)

◆参考書

◆教員紹介

担当教員は病院での勤務経験に基づいて、臨床検査技師養成に向けた授業を展開する。

回数	項目	講義内容	担当
1, 2	ガイダンス	全体説明 各検査機器のセッティング	専任教員
3, 4			
5, 6	生理機能検査学実習	1)循環機能検査；心電図 2)呼吸機能検査；スパイロメトリー 3)脳波検査 4)超音波検査；腹部エコー	〃
7, 8			〃
9, 10			〃
11, 12			〃
13, 14			〃
15, 16			〃
17, 18			〃
19, 20			〃
21, 22			〃
23			〃
24	まとめ	試験	〃